

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-1	高等学校	商業	財務会計Ⅰ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
230・ネット	商業・714	使える 財務会計Ⅰ		

1. 編修の基本方針

幅広い知識と教養の一環として簿記を学習するにあたり、平易な文章表現と多くの例により、学習者がより早く理解と習熟が進むように工夫した。また、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという教育の目標に資することを念頭に説明するように努めた。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Chapter 1 財務会計の基礎	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う目標にむけ、財務会計の導入的内容について、わかりやすく説明した。(第一号)	2～34 ページ
Chapter 2 現金預金	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う目標にむけ、銀行勘定調整表の類型について、わかりやすく説明した。(第一号)	44 ～47 ページ
Chapter 3 営業取引	個人の能力を伸ばし、創造性を培う目標にむけ、営業取引という括りの中で、種々の取引の処理を学習するようにした。(第二号)	58 ～90 ページ
Chapter 5 有価証券	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う目標にむけ、各種有価証券の取得から売却(満期)までの一連の処理を一覧できるようにするなど、わかりやすく説明した。(第一号)	123、 127 ページ等
Chapter 6 固定資産	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う目標にむけ、有形固定資産の会計処理について、単に計算方法を示すだけでなく、イラストや図を多く用いて、わかりやすく説明した。(第一号)	140 ～162 ページ
Chapter 8 引当金	個人の能力を伸ばし、創造性を培う目標にむけ、引当金について、設定時の処理のみならず、取崩時の処理までを一連のものとして学習することにより、理解度を高めるようにした。(第二号)	190 ～193 ページ
Chapter10 純資産	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う目標にむけ、純資産の会計処理について、多くの具体例を用いて、わかりやすく説明した。(第一号)	208 ～234 ページ
Chapter12 財務諸表の作成	個人の能力を伸ばし、創造性を培う目標にむけ、貸借対照表と損益計算書の作成について、決算整理の内容のみならず、財務諸表の表示なども含めた総合的な理解の助けになるよう、わかりやすく説明した。(第二号)	246 ～256 ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させるという高等学校教育の一つの目標にむけ、学習者が財務会計の基本的内容を理解し、財務会計へのさらなる興味が喚起されるよう、理解できる、よって意欲的に学習できる教科書たることを念頭に執筆した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-1	高等学校	商業	財務会計Ⅰ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
230・ネット	商業・714	使える 財務会計Ⅰ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ① 各取引の場面の設定を行った。
各 Section の冒頭に「はじめに」を設け、そこで場面を設定した。
- ② 会計処理の背景と理由を付した。
会計処理について暗記に終始することがないように、会計処理の背景と理由を付した。
- ③ 図とイラストを多用した。
図とイラストを多く入れることで、複雑な取引についてイメージをできるようにした。
- ④ 2色刷りにした。
重要な箇所等について見やすくするために、2色刷りにした。
- ⑤ 文体を「ですます調」にした。
馴染みのない取引について親しみやすく、また読みやすくするために、文体を「ですます調」にした。
- ⑥ 側注を付した。
本文の内容を補足する知識を側注に入れることにより、さらに理解を深めるようにした。また、計算式も主に側注に置くことにより本文を読みやすくした。
- ⑧ 確認問題を収載した。
各 Section 末に、例題 (Try it) を設け、内容の理解度を問題で確認できるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
Chapter 1 財務会計の基礎			
1 企業会計の目的	(1) ア 企業会計の意義と役割 イ 財務会計の機能 ウ 会計法規と会計基準	1～20 ページ	3
2 制度会計			
3 会計基準			
4 財務諸表の種類			
5 損益計算書のルール	(3) ア 損益計算の意味と損益の区分	21～28	2
6 貸借対照表のルール	(2) ア 資産、イ 負債、ウ 純資産	29～34	2
Chapter 2 現金預金			
0 現金と当座預金の基本的処理			
1 銀行勘定調整表	(2) ア 資産	40～49	2
Chapter 3 営業取引			
0 商品売買の基本的処理			
1 収益の計上基準	(3) イ 収益・費用の認識と測定	58～72	4
2 割戻しの処理			
3 クレジット・カードによる販売			
4 特殊商品売買			
5 期末商品の評価	(2) ア	73～83	3
6 役務収益・役務費用	(3) イ 収益・費用の認識と測定	84～86	1
7 建設業会計	(3) イ 収益・費用の認識と測定	87～90	2

Chapter 4 手形 0 手形の基本的処理 1 割引きと裏書き 2 不渡りの処理 3 電子記録債権・電子記録債務 4 売上割引・仕入割引	} (2) ア 資産	98～110	3
Chapter 5 有価証券 0 有価証券の基本的処理 1 有価証券の分類 2 売買目的有価証券 3 利付債券の売買 4 その他有価証券 5 満期保有目的債券 6 関係会社株式	} (2) ア 資産	114～136	8
Chapter 6 固定資産 0 固定資産の基本的処理 1 有形固定資産の減価償却 2 有形固定資産の売却・除却と買換え 3 建設仮勘定 4 資本的支出・収益的支出 5 有形固定資産の割賦購入 6 有形固定資産の滅失 7 圧縮記帳	} (2) ア 資産	140～163	14
Chapter 7 その他の固定資産と繰延資産 1 無形固定資産・投資その他の資産 2 繰延資産	} (2) ア 資産	167～180	3 1
Chapter 8 引当金 0 貸倒引当金の基本的処理 1 貸倒引当金 2 その他の引当金	(2) ア 資産 (2) イ 負債	185～188 189～196	2 2
Chapter 9 社債 1 社債の発行と満期償還 2 社債の買入償還	} (2) イ 負債	197～206	2 2
Chapter10 純資産会計 1 純資産会計の基礎知識 2 株式の発行 3 純利益の計上と剰余金の配当 4 任意積立金・損失の処理 5 自己株式 6 合併 7 株主資本等変動計算書	} (2) ウ 純資産	207～234	12
Chapter11 税金 0 消費税の基本的処理 1 法人税、住民税及び事業税	(3) イ 収益・費用の認識と測定	239～241	2
Chapter12 財務諸表の作成 1 貸借対照表と損益計算書の作成	(2) エ 貸借対照表の作成 (3) ウ 損益計算書の作成	245～256	5 5
Chapter13 連結会計 1 連結会計の本質 2 支配獲得日の連結 3 支配獲得後の連結 4 親会社・子会社の取引 5 連結財務諸表の作成	(4) ア 連結財務諸表の目的と連結の範囲 } (4) イ 連結財務諸表作成の基礎	258～261 262～292	2 15
Chapter14 財務諸表の分析 1 財務諸表分析の意義と方法 2 収益性分析 3 安全性分析 4 成長性分析	(5) ア 財務諸表分析の意義 } (5) イ 財務諸表の見方	294～295 296～307	1 5
巻末 企業会計原則	(1) ウ 会計法規と会計基準	308～319	2
		計	105

(発展的な学習内容の記述)

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
91 ～94	外貨建取引	1	関連する学習指導要領の内容 ・財務会計Ⅰ(2) ア 資産、イ 負債 (3) イ 収益・費用の認識と測定 ・財務会計Ⅱ(2) ウ 外貨換算会計	3.5
164 ～166	リース会計	1	関連する学習指導要領の内容 ・財務会計Ⅰ(2) ア 資産、イ 負債 ・財務会計Ⅱ(2) エ リース会計	3
224 ～226	新株予約権	1	関連する学習指導要領の内容 ・財務会計Ⅰ(2) ウ 純資産 ・財務会計Ⅱ(2) イ 負債・純資産	3
242 ～244	税効果会計	1	関連する学習指導要領の内容 ・財務会計Ⅰ(2) ア 資産、イ 負債 (3) イ 収益・費用の認識と測定 ・財務会計Ⅱ(2) オ 税効果会計	3
				合 計
				12.5

1 … 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容

2 … 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容